

学習の導入例

- 自分や家族などは、非常持出品を用意しているか?
- ライフラインが止まるなどしたときのために、自宅に備蓄品を準備しているか?
- 自分や家族に必要な非常持出品について話し合ったり、避難する場合を想定して話し合ったりしたことはあるか?
- 実際に避難したことがあるか? また、避難はしなかったものの、避難の準備をするような状況になったことがあるか?
- 災害が起こりそうなときや避難が必要になったとき、どんな物が必要だと思うか?

学習の目標

災害に対する日頃からの備えや、災害の危険が間近に迫った時の行動を理解し、それらについて家族などと話し合い、今日からでも災害に備えること。

学習項目

- 1 日頃からの備え
- 2 災害の危険が間近に迫ったときの行動や準備

学習の進め方

学習のねらい 演習問題との対応

学習動画・演習問題の学習内容における
重要項目 ● 補足事項 ◆

学習内容を深めるための、
生徒への投げかけ★

1 日頃からの備え
(非常持出品・備蓄品)

演習

非常持出品や備蓄品の備えについて理解する。

- 非常持出品...安全に避難するために必要最低限持ち出すもの。
備蓄品...ライフラインや物流が止まったときのため、家などに備えておくもの。
- 非常持出品や備蓄品は、定期的に必要なものを見直したり、食料品の賞味期限などを点検したりする必要がある。
- 非常持出品や備蓄品で用意するものは、家族構成によって異なる。
(例)
・乳幼児や高齢者がいる家庭など。
- ローリングストックの具体的な内容について理解する。
- 備蓄の目安は、家族の人数分×最低3日分である。
>>>できれば週間分を備える。
- ◆ 非常持出品や備蓄品の用意以外にも、日頃からできる備えとして、ハザードマップで災害の危険性や避難先の確認、家族などとの連絡方法の確認、学校や地域の防災訓練への参加などがある。
>>>災害の危険性や避難先の確認については、単元②を参照。

★ 自分や家族などは、非常持出品を用意しているか? また、自分の家には、備蓄品があるか? 用意している場合はどのようなものを用意しているか?

学習のねらい 演習問題との対応	学習動画・演習問題の学習内容における 重要項目 ● 補足事項 ◆	学習内容を深めるための、 生徒への投げかけ★
<p>2 災害の危険が間近に迫ったときの行動や準備</p> <p>演習2</p> <p>災害の危険が間近に迫ったときに、取るべき行動を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 災害の危険が迫ったときには、避難情報や防災気象情報などの最新情報を確認する。 ● 避難するまでの時間を使って、家の戸締まりや非常持出品袋の用意など、必要な準備をする。 ● スマートフォンは情報収集手段や連絡手段として重要となるので、避難するまでの間に、スマートフォンやモバイルバッテリーを充電しておく。 ● 非常持出品袋は日頃から用意しておき、誰がどの袋を持つかを決めておく。 ◆ 市町の指定する避難所や避難場所へ避難する場合は、市町のウェブサイトなどで開設状況を確認してから避難する。 ◆ 危険な場所にいる人は、警戒レベル4までに、必ず全員避難する。 ◆ 非常持出品袋は、玄関などの持ち出しがしやすい場所に備えておく。 	<p>★ 災害の危険が迫り、避難を考えるような場合、自分はどのような行動をするか決めているか？ また、そのようなとき、自分や家族などの役割は決まっているか？</p>
<p>あなたや家族に必要な非常持出品を考えてみましょう</p> <p>実践1</p> <p>自分や家族などにとって、どのような非常持出品が必要かを考えることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 家族構成によって必要な非常持出品は異なる。 ● 非常持出品は、たくさん用意すればよいものではないことを理解する。(避難時に持ち運ぶことができる量。) >>>非常持出品袋の重さの目安…男性は約15kg、女性は約10kg。 ◆ 非常持出品袋を用意したら、一度背負って重さを確認してみるとよい。 >>>広島県「みんなで減災」はじめての一歩「防災グッズ一覧」ページ https://www.gensai.pref.hiroshima.jp/prepare/goods.html 	<p>★ 自分や家族などの非常持出品として考えたもので、特徴的なものはあるか？ またそれは、なぜ必要なのか？ 周囲の人と話し合ってみよう。</p>
<p>命を守るために日頃からできること</p> <p>実践2</p> <p>マイ・タイムライン作成ステップ④</p> <p>命を守るために日頃から準備や行動(自助・共助)について考えることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 大雨が降ったときのことを想定し、自分ができる具体的な行動について考えることができる。 >>>「公助」を加えた3つの「助」については、単元⑤を参照。 ◆ 平成30年7月豪雨災害でも、「共助」の重要性が注目されている。 	<p>★ 自分が記入した内容や、新たに考えついた準備や行動(「自助」「共助」)について、周囲の人と意見を交換してみよう。</p> <p>★ 夜に大雨が降りそうときや一人で家にいるときに、どうしたらよいかを、周囲の人と話し合うなどしてみよう。</p>